

# 校舎の建築

開校1年後の大正9(1920)年8月、校舎本館、寄宿舍3棟が完成し、9月1日に仮校舎から正式に移転した。その後、特別教室、講堂その他の建物も順次完成し、大正11年5月16日、新しい講堂で毛利元昭公爵、文部省学務課長、山口県知事、その他250名を招き、校舎落成式が盛大に行われた。



落成式



校舎本館(玄関)



寄宿舍(鴻南寮)



講堂



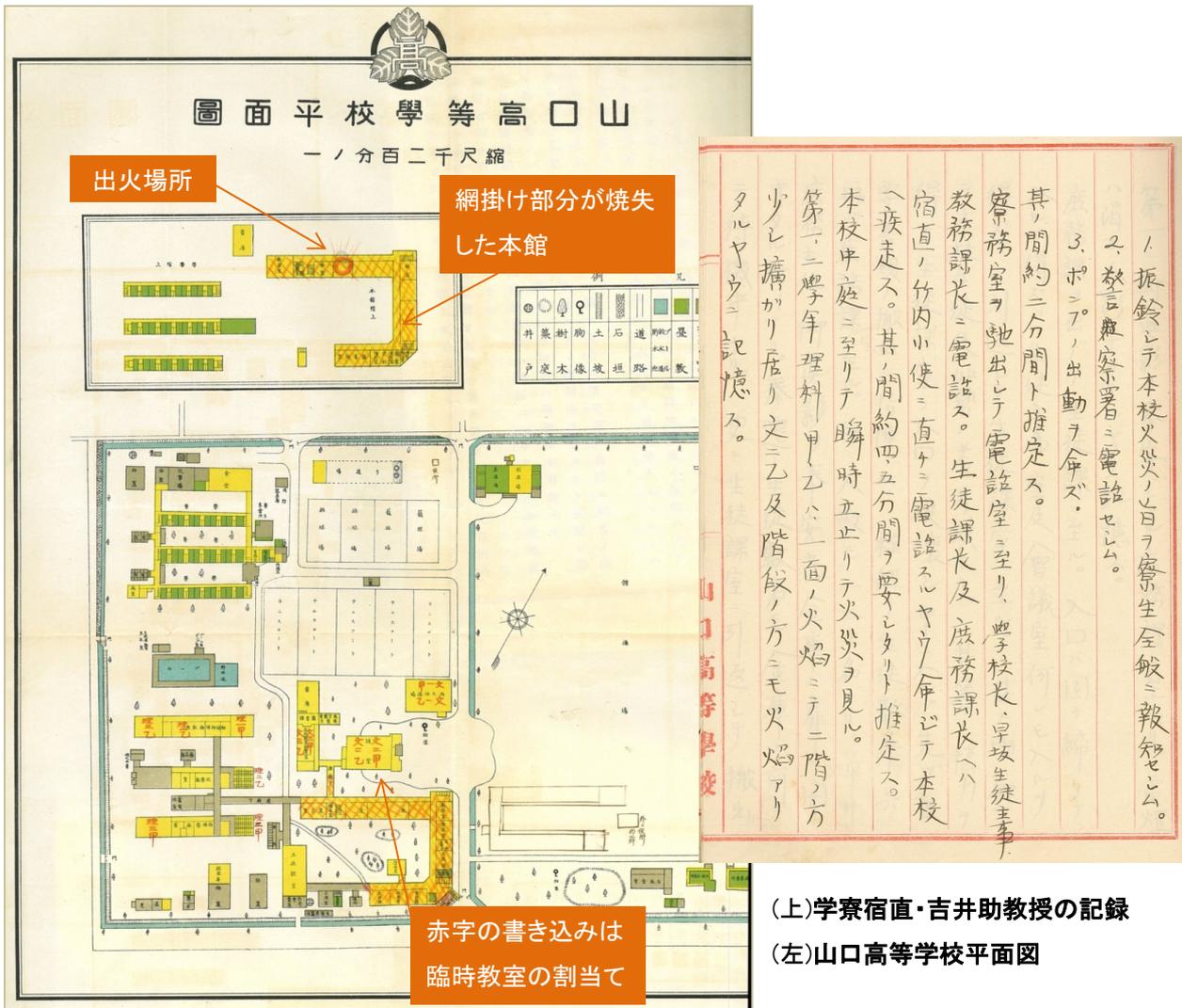
現在の講堂(県立山口高等学校内)

平成18年に改築された

旧山高の建物は、講堂のみ記念館として現在も山口県立山口高等学校の敷地内に残っており、管弦楽部の部室として使用されている。

# 火事による本館の焼失

昭和11(1936)年10月29日午前3時頃、旧山高の本館2階から出火し、市内の全消防組、山高、山口高商、師範、連隊の各消防班、付近町村の公私設消防組などで消火作業が行われた。しかし、連日続いていた干天で建物が乾燥し切っていたこともあり、本館全部を焼失し午前5時半頃鎮火した。出火したのは、理二甲の教室で、煙草の吸殻の不始末が原因であったとされる。重要書類や調度品の大部分は運び出されたが、階上の考古学関係、歴史学関係の資料の大部分は燃えてしまった。



(上)学寮宿直・吉井助教授の記録  
(左)山口高等学校平面図

火事の後、本館が使えないため、他学校に教室の借入りの要望を出したが、山口高商は教室の不足の上、満州国学生を多数收容したためにさらに狭隘であり、山口師範も建物敷地、共に狭隘で、常に小学校教員講習会等を開催しているため、全く余裕がないとして借りることができなかった。教室は、体操場や他の教室で代替し、新校舎の工事が始まった。翌年6月、木造2階建てで防火壁の設備もある立派な校舎が完成し、2学期から使用が開始された。